

保健福祉文教委員会

送付 18 - 7

東京通信病院の産科存続を求める陳情書

受付年月日 平成 18 年 10 月 5 日

陳 情 者 千代田区外神田 2 - 8 - 4 - 6 0 2

東京通信病院の産科存続を求める会

代表世話人 ^{とみた} 富田 ^{りょうこ} 僚子 外 2 1 7 名

追加署名(10/12) 1 8 7 名

計 4 0 4 名

陳 情 書

(陳情の要旨)

東京逡信病院の産科を存続するよう、郵政公杜総裁宛に意見書を提出してください。

(陳情の趣旨)

少子化の進む中、各地で産科施設の減少・不足が深刻になっています。東京都も例外でなく、日本産科医会の調査によると、出産適齡期(20～39歳)の女性の出産できる病院・診療所の数が人口1万人当たり0.99施設と、47都道府県の中で埼玉県に次ぐ下から二番目です。そのため現在でも、産科はどこも混んでおり、検診の待ち時間は長く、お産のできる所を探すのに苦労しています。

こうした状況の中、千代田区内では東京逡信病院が「今後も分娩数の増加、収益確保は見込めない」として、産科医が3人もいて設備もありながら、今年12月末で産科を休診するそうです。

八千代助産院が来年9月に、東京警察病院が2008年3月に移転する計画が進行しており、このままでは、富士見・麴町地域からは産科施設がなくなってしまいます。子育て中の保護者にとっては、近くに小児科と産科がある病院が存在することは何より心強く安心です。

2006年10月5日

千代田区議会議長 殿